

米国農務省穀物等需給報告(2008年9月12日発表のポイント)

米国農務省は、9月12日(現地時間)に2008/09年度5回目(大豆については4回目)の世界及び主要国の穀物・大豆の需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。

(2008/09年度の穀物・大豆の生産量は消費量を上回る見込み)

1. 世界の穀物需給の概要(見込み)

- ① 生産量: 21億9,496万t(対前年度比 3.7%増)
- ② 消費量: 21億7,411万t(対前年度比 3.0%増)
- ③ 期末在庫量: 3億6,727万t(対前年度比 6.0%増)
期末在庫率: 16.9%(0.5ポイント増)

【主な品目別の動向】

○ 小麦

- ① 生産量: 6億7,628万t(対前年度比 10.7%増)…EU27、米国、ロシア、ウクライナ等で増加
- ② 消費量: 6億5,488万t(対前年度比 5.7%増)…EU27、米国等で増加
- ③ 期末在庫量: 1億3,989万t(対前年度比 18.1%増)
期末在庫率: 21.4%(2.3ポイント増)
- ④ 前月からの主な変更点: EU27、ロシア及びウクライナの前年度生産量の上方修正、オーストラリアの前年度生産量及び期末在庫量の下方修正

○ とうもろこし

- ① 生産量: 7億8,296万t(対前年度比 0.9%減)…米国等で減少、EU27等で増加
- ② 消費量: 7億9,647万t(対前年度比 2.7%増)…中国、ブラジル等で飼料用需要、米国でエタノール用需要の増加
- ③ 期末在庫量: 1億 994万t(対前年度比 11.0%減)
期末在庫率: 13.8%(2.1ポイント減)
- ④ 前月からの主な変更点: 米国の生産量、消費量及び期末在庫量の下方修正、アルゼンチンの生産量の下方修正、中国の生産量及び期末在庫量の上方修正

○ 米(精米)

- ① 生産量: 4億3,198万t(対前年度比 0.6%増)…インドネシア、中国等で増加
- ② 消費量: 4億2,888万t(対前年度比 0.4%増)…インド等で増加
- ③ 期末在庫量: 8,036万t(対前年度比 4.0%増)
期末在庫率: 18.7%(0.6ポイント増)
- ④ 前月からの主な変更点: 大きな修正なし

2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

- ① 生産量: 2億3,799万t(対前年度比 9.1%増)…米国、アルゼンチン、中国等で増加
- ② 消費量: 2億3,676万t(対前年度比 2.9%増)…中国等で搾油需要の増加
- ③ 期末在庫量: 5,123万t(対前年度比 2.2%増)
期末在庫率: 21.6%(0.2ポイント減)
- ④ 前月からの主な変更点: 米国の生産量及び消費量の下方修正、アルゼンチン及び中国の前年度生産量の上方修正、結果、世界の生産量が消費量を上回る見込み

(参考1)

平成20年9月16日
大臣官房食料安全保障課

世界の穀物の価格動向(2008年)

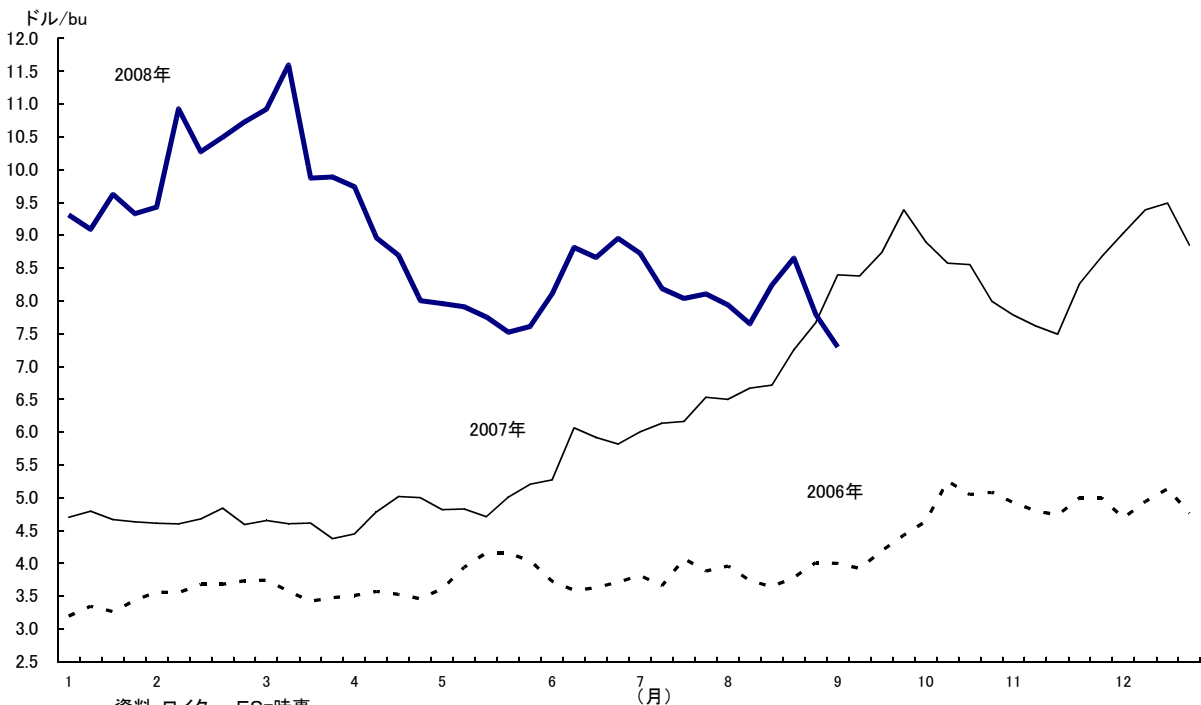
(穀物価格は、シカゴ商品取引所における9月第1週末の期近価格である。)

● 小 麦:7.30ドル/bu(前年同時期の価格:8.40ドル/bu)

2006年は、9月中旬以降、オーストラリアの干ばつによる減産懸念等により値を上げ、その後、米国等における来年度増産見込み等により水準を下げながら推移した。

2007年は、4月以降、米国主産地の寒気による被害、ウクライナの干ばつ、その後、米国の降雨による収穫作業の遅れや欧州の天候懸念等からさらに値を上げた。8月以降、カナダや欧州の減産見込みに加え、オーストラリアの干ばつによる減産懸念や旺盛な需要等を背景に9.5ドル/buまで値を上げた後、需要減少により下げに転じた。その後、米国の2008年産冬小麦の乾燥天候による作柄悪化懸念やインド等の輸入の動きで再び値を上げ、12月に9.7ドル/buまで値を上げた。その後、小麦の高値による米国の輸出成約の減速懸念からやや値を下げた。

2008年は、米国の2008年産冬小麦作付面積の増加が市場見込みを下回ったことや、高タンパク小麦を中心とした需給の引き締め等により値を上げ、2月27日に12.8ドル/buと史上最高値を更新した。その後、世界の生産量の大幅増加見込みの中、米国の冬小麦の収穫が始まったことから値を下げた。6月以降、米国中西部における豪雨や洪水の影響による大豆価格やとうもろこし価格の上昇につられて一時値を上げたものの、その後良好な天候が続き、大豆やとうもろこしの作柄が改善したことから値を下げた。8月以降、オーストラリア、アルゼンチンの乾燥天候等の作柄悪化懸念から一時値を上げたものの、その後の降雨により値を下げ、現在7ドル/bu前半で推移。



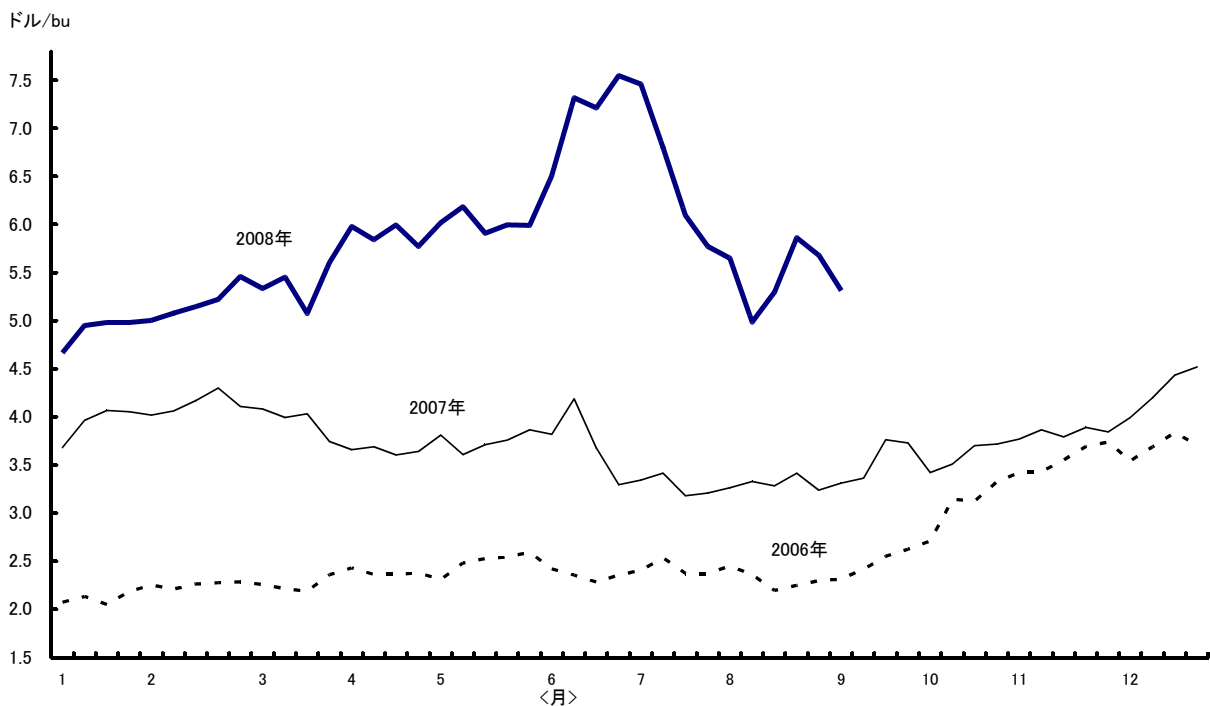
資料:ロイター・ES=時事
注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。

● とうもろこし:5.32ドル/bu(前年同時期の価格:3.31ドル/bu)

2006年5月以降エタノール仕向けを中心とした需要増加を背景に値を上げた。その後、9月中旬以降、米国の降雨による収穫作業の遅れのほか、オーストラリアの干ばつによる世界的な飼料穀物の供給力悪化懸念等により上昇基調に転じた。

2007年3月末には米国農務省の農家作付意向面積報告による作付面積増加見込みを受けて値を下げた。6月に入り作付後の乾燥懸念から一時値を上げたが、その後の降雨と6月末の作付面積報告により当初予想以上に作付面積が増加したこと、生育も概ね順調とみられることから値を下げた。9月に入ると、欧州を中心とした飼料用作物の供給悪化懸念と輸入の動きや、原油価格の高騰等を背景に値を上げた。

2008年は、米国の輸出需要の拡大や1月の需給報告による単収、期末在庫量の引き下げ、大豆価格の上昇やドル安などの影響や3月末の米国農務省の農家作付意向面積報告による作付面積減少見込み、米国中西部の降雨による作付の遅れに加えて、6月以降、米国中西部における豪雨や洪水の影響による作柄悪化の懸念などから値を上げ、6月27日に7.5ドル/buと史上最高値を更新した後、受粉に良好な天候が続いたことから値を下げた。8月中頃以降、米国中西部の乾燥懸念から一時値を上げたものの、その後の降雨等により値を下げ、現在は5ドル/bu前半で推移。



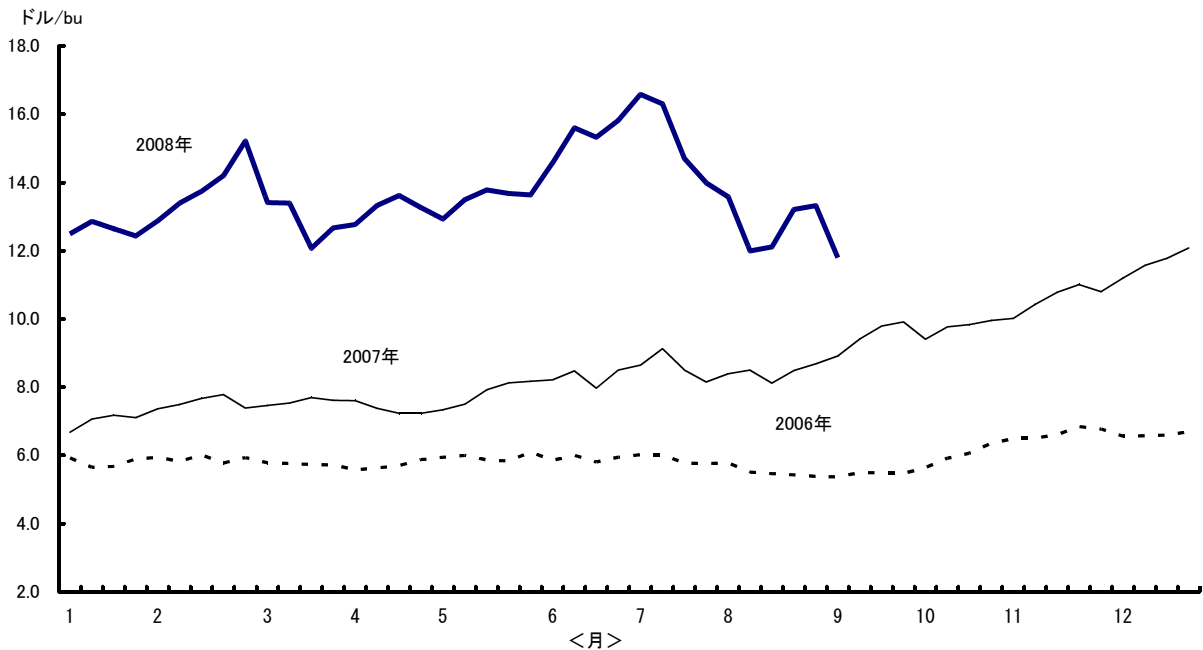
資料:ロイター・ES=時事
注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。

● 大豆:11.80ドル/bu(前年同時期の価格:8.91ドル/bu)

2006年は、米国の期末在庫が潤沢なことに加え、米国における新年度の作付面積の増加が見込まれたこと等から比較的低位で推移したが、9月中旬以降、来年度の米国における作付面積減少懸念等により上昇基調に転じた。

2007年3月末には米国農務省の農家作付意向面積報告による作付面積減少見込み、バイオディーゼル原料需要の増加による植物油価格の上昇、6月末の作付面積報告により当初予想以上に作付面積が減少したこと等により徐々に値を上げた。8月後半に入り、米国の一部主産地の乾燥懸念やその後のブラジルの乾燥天候による作付作業の遅れ懸念から値を上げ、10月に入ると、原油価格の高騰等を背景に値を上げ、米国の輸出需要の拡大や中国の輸入拡大等によりさらに値を上げた。

2008年は、とうもろこし、小麦の価格上昇による2008年産作付減少への懸念、2月中頃以降、中国で寒波による菜種の減産懸念が生じ、代替として大豆油需要の増加が見込まれることなどから値を上げた後、3月末の米国農務省の農家作付意向面積報告による作付面積増加見込みを受けて値を下げた。その後、アルゼンチンの農業者ストや、6月以降、米国中西部における豪雨や洪水の影響による作柄悪化の懸念などから値を上げ、7月3日に16.6ドル/buと史上最高値を更新した後、米国中西部が開花に良好な天候に恵まれたことやアルゼンチンでストの原因となった輸出税に関する新制度の関連法案が廃案となったことを受けて値を下げた。8月中旬以降、米国中西部の乾燥懸念から一時値を上げたものの、その後の降雨等により値を下げ、現在は11ドル/bu後半で推移。



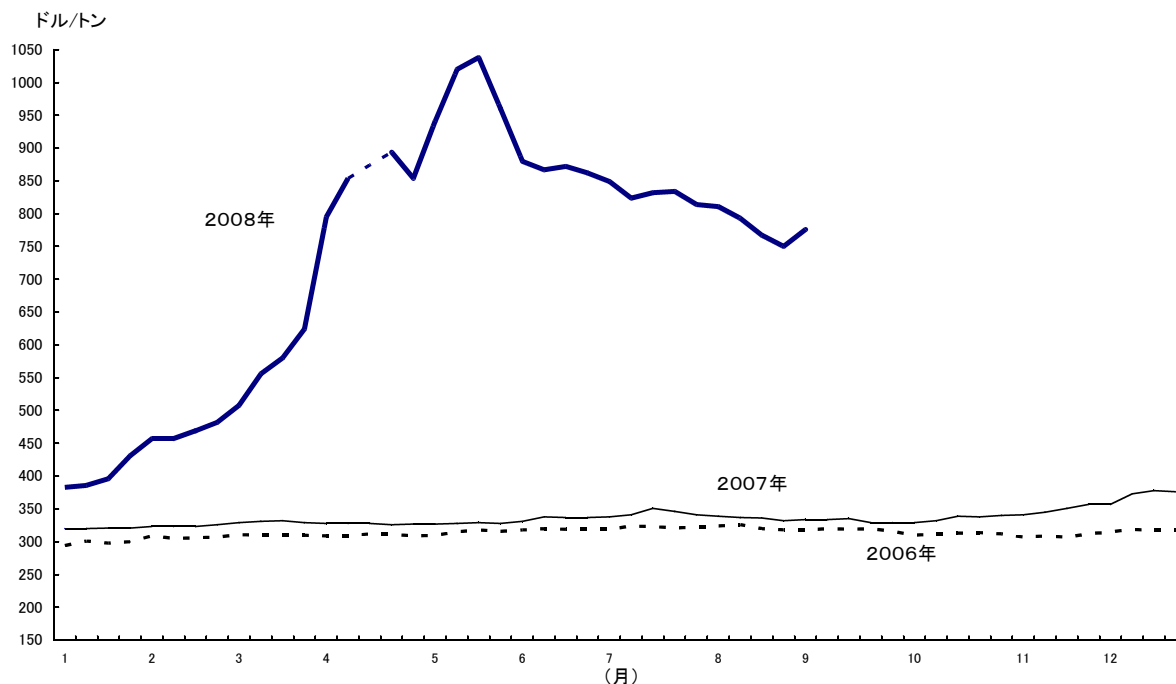
資料:ロイター・ES=時事
注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。

● 米:776ドル/トン(前年同時期の価格:334ドル/トン)

(価格は、タイ国家貿易取引委員会における8月第1水曜日のFOB価格である。)

2006年は、堅調な需要があるものの、タイの輸出余力が昨年以上に増加したことから比較的安定して推移した。

2007年6月からはフィリピン等東アジアでの需要増加に加え、イラク向け輸出の増加などによる世界的な需給の引き締まりを背景に値を上げ、10月以降ベトナム、インド、中国などの輸出規制の影響などから、世界的な需給の逼迫が強まり急騰し、2008年5月21日に1,038ドル/トンと史上最高値を更新した後、ベトナムが6月中旬から輸出を再開したこと等を受けて値を下げ、現在は700ドル/トン後半で推移。



(注)タイ国家貿易取引委員会、うるち精米100%2等のFOB価格(各週水曜日)
2008年4月16日はタイの祝日により休場(点線部分)。

(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年1月	2月	3月	4月	5月
113.15	107.49	113.26	116.89	114.35	107.66	107.16	100.79	102.49	104.14

20年6月	7月	8月
106.90	106.81	109.28

注：東京市場銀行間取引、直物相場終値平均(日本経済新聞)

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

15年	16年	17年	18年	19年	20年1月	2月	3月	4月	5月
35.14	58.99	49.49	41.59	85.22	103.80	105.15	115.24	122.24	147.23

20年6月	7月	8月
128.11	128.19	107.71

注：米国ガルフー日本間(穀物、パナマックス級；World Maritime Analysis Weekly Report)
2007年4月よりパナマックス級のサイズ変更(65,000DWT→72,000DWT)
20年8月の数値は、2008年9月5日現在の暫定値

3 原油価格(WTI:米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

15年	16年	17年	18年	19年	20年1月	2月	3月	4月	5月
31.04	45.64	56.56	66.21	72.34	92.93	95.35	105.42	112.46	125.46

20年6月	7月	8月
134.02	133.48	116.67

注：内閣府「海外経済データ(平成20年8月)」
20年8月の原油価格(WTI)は「U.S.Energy Information Administration」